

かありませんが、顎下腺の少しく大きく（少くとも銀杏大以上に）肥大して且つ固いのはやはり腺病質の徴候です

# 子供の感冒豫防

瀨川醫學博士談

▲朝夕の外出は禁物 近頃大分小兒の氣管支病に罹る者が多くなつたが既に罹つた者は手後れせぬやう醫療を受くるが肝腎であるし一般家庭の注意としては感冒に罹らぬ豫防手當が何寄の必要である生後五六ヶ月位の幼兒ならば戸外に出さず置くがよろしい二三歳から六七歳に至る小兒でも朝早くと夕景頃から外出は禁物である夏時ならば兎も角も此寒い冬空に朝の空氣が藥になるなどといつて六七時乃至八九時頃の冷たい空氣に當るの云つて毒となる總じて日本作りの建物は通氣のは却つて毒となる故らに幼兒を戸外に負ひ出すには工合が良いから故らに幼兒を戸外に負ひ出すには及ばない七八歳の健全な小兒でも午前の十一時か

午後二時に至る暖かい時間を除く前後は外無用である

▲衣服寝具等の注意 何でも澤山に重ね着すのが小兒の爲めになると心得て襦袢に綿入の三四枚を着せて其の上に股引を穿かせ襟巻をさせると云ふ風は強ち珍らしくない甚だしいのは寝かして置く時迄が矢張り股引綿入に身を包んで其れが小兒の爲めに親切である

誤つて居る父母もある吾輩の家では小兒の日中着は襦袢一枚綿入二枚とし寒い時には綿入羽織を重ねて遣り寝衣としては冬はフランネルの襦袢一枚夏は木綿の單衣一枚と決めてある一體東京附近の氣候では小兒に襟巻襦袢、股引等の必要はない寝衣を二枚も三枚も纏はせて厚い重い夜具の中に寝かすのは安眠にも害になり夜中蒲團を轉げ出す虞れもあつて却て感冒に罹らせる機會を作ることがある寝衣も夜具も成る可い暖い身軽い物を用ゐて小兒の安眠に便するが好い夜間股引足袋の儘に寝かして置くが如きは以ての外なる誤りである未だ負はれて居る小兒などは餘り餘計に着物を着せてある爲め下ろして負着半

纏を取るとぼつ／＼いきを立てゝるのも見受けるが彼様なのは感胃に取つては頗る危険千萬である大人小兒を問はず暖い所から寒い所に急に變ずる場合は感胃に罹り易いのである

▲入浴後守る可き注意 小兒を毎日／＼風呂に入る習慣の家庭もあるが身體の清潔を保つて遣る爲めなら其様な必要はない吾輩の家では子供の入浴は一週二回とし腰巻は入浴の都度即ち一週二回洗濯したのと取替へ襦袢は一週一回同じ洗濯したのと着替へさせて居るが之れで立派に清潔も保もたれ健康も保もたれて居る未だ襦袢を用ゐて居る時々股間腰部などを汚くする時代でも湯に入れた軟い布片類で丁寧に拭つて遣り湿氣を悉皆と取つて置けば必ずしも毎日／＼湯に入らず共よろしい入浴後は俄かに體熱が蒸發するのであるから動もすれば感胃に罹り易い小兒の爲には寝る前に入浴させるのが一番安全であるが若しその他に入浴させた場合は綿入れの一枚位餘計に着せて置かぬと好けない小兒を銭湯へ連れて行く家庭に於ては浴後歸宅迄の間に充分なる注意を拂ひ自身の温か

さに取り紛れて小兒に薄着をさせたり風に當てたりしてはならないし又何れの場合を問はず湯を使はせた時は湿氣を悉皆と拭き取ることを忘れてはならぬ

### 母親への戒め

白山生

子を育て、こそ知れ親の恩と誰れも云ふて居る通り一人一人育てる苦心と云ふものは並大抵のことではない。それもまんまと首尾よく育て上げた人はやれ／＼と重荷を下ろして扱て是からは樂隱居と極め込むことも出来ませうけれど夫れが一つ遣りそこなつて飛んでもない出来損ひを造り上げる様にはめになつては其苦しさつらさは然こそと思はれる。世の親たる人は戒めに戒めて百年の悔を遺さぬ様心掛けねばならぬことである。次に記すのは或悪書生の母親なる人の懺悔話、座ろに御氣の毒に堪えぬところもあるが考へれば強ち豫防の出来